

1. 現状と課題発見

(1) 分野別の現状・課題

① 人口

土浦市の2015年4月1日現在の総人口は144,532人であり、年少人口は18,308人（約12.7%）、生産年齢人口は89,009人（約61.6%）、老年人口は37,215人（約25.7%）である。1980年では、総人口は121,275人（ただし新治村を含む。）であり、年少人口は29,979人（約24.7%）、生産年齢人口は81,333人（約67.0%）、老年人口は9,963人（約8.2%）であったため、1985年から現在にかけて人口は約23,000人増加し、年少人口・割合はともに大幅に減少（約12%減）、生産年齢人口は増加したが割合としては減少（約5.4%減）、老年人口・割合はともに大幅に増加（約17.5%増）したことがわかる。

次にコーホート要因法を用いて将来の土浦市の人口予測を行った。人口は年を境に減少し、2040年には約111,480人になり、うち年少人口は約11,448人（約10.3%）、生産年齢人口は約63,050人（約56.6%）、老年人口は約36,982人（約33.2%）となることが予想される。2015年と比較すると人口が約33,000人減少し、年少人口・割合はともに減少（約2.4%減）、生産年齢人口・割合もともに減少（約5.0%減）、老年人口はほぼ変わらず割合は増加（約7.5%増）すると考えられる。

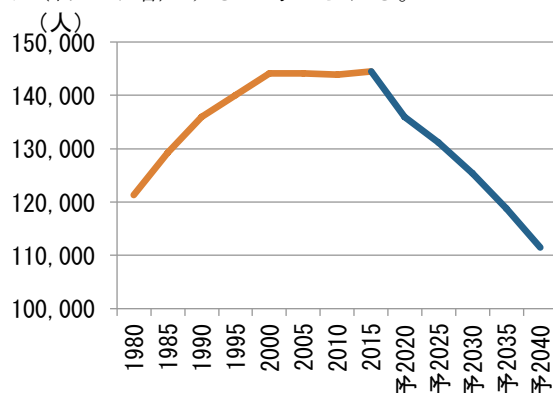


図1 土浦市の人口推移・人口予測

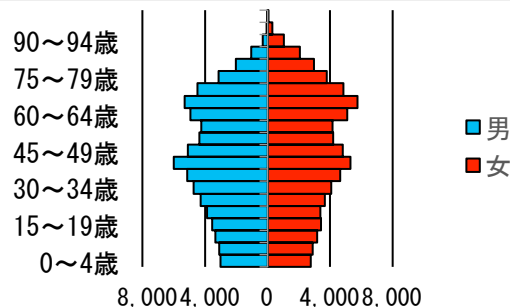
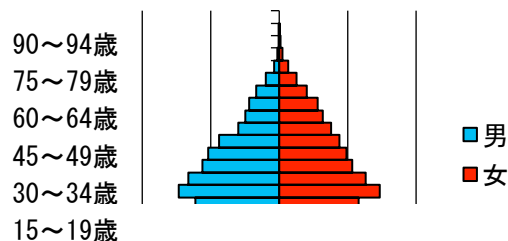


図3 土浦市の人口ピラミッド（2015年）

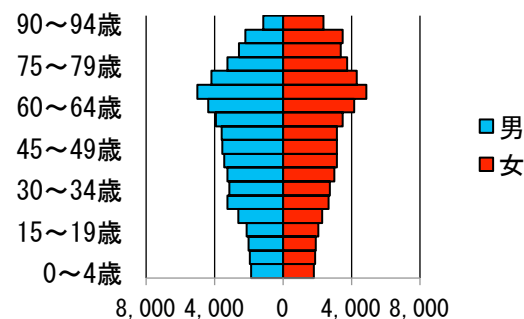
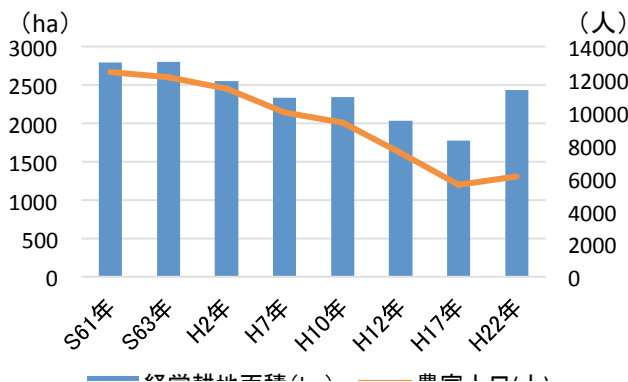


図4 土浦市の人口ピラミッド（2040年、予測）

② 農業

農家戸数の変遷を見ると、農家戸数が減少し、その中でも兼業農家戸数が大きく減少していることがわかるが、専業農家戸数はほぼ横ばいとなっている。農業人口と経営耕地面積の変遷を見ると、平成18年の新治村との合併による影響により増加しているが、全体的に見て双方が減少傾向にあると言える。



で4位であり、県内でも有数の工業力を有していることが分かった。土浦市は現在、市北部に立地波新治工業団地」、「土浦北工業団地（テ土浦北）」「神立地区工業団地」、「おお」という4つの工業団地を有している。この「おおつ野ヒルズ」の業務用敷地の分譲が、いという点に着目した。おおつ野ヒルズは敷地整備が終了して以降平成20年現在までのみが立地していた。しかし総合病院土が2016年3月の移転・開業を決定し、それ属介護専門学校等、関連施設の立地が決定より、このような医療・福祉分野の施設立工業にとらわれない企業誘致及びまちづだと考えられる。

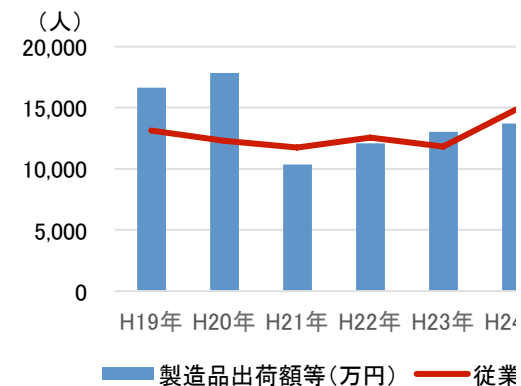


図6 土浦市の製造品出荷額等、従業者数



図7 土浦市の工業立地

④ 商業

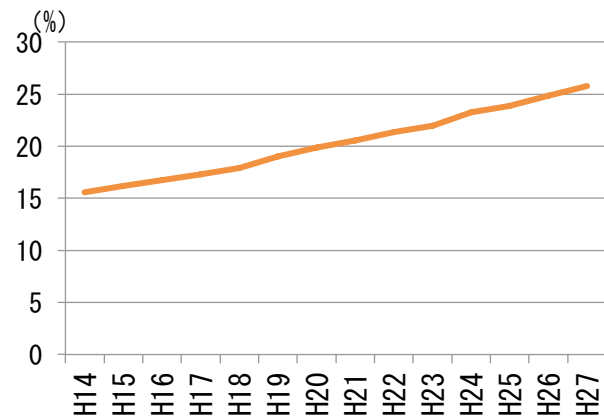
現地調査を通して、中心市街地ではシられ、またモール505においては空き店舗



図10 土浦市の年間商品販売額の推移

⑤ 医療・福祉

要支援・要介護認定者数の推移を見ると、ともに増加傾向にあり、これからも介護や支援が必要な市民が増えて行く予想される。高齢者人口と医療施設の分布を見ると、国道沿いや中心市街地には多くの医療施設が立地していることがわかるが、高齢者人口の多い郊外地域にはあまり立地していないことが読み取れる。今後は高齢者の多い郊外地域での高齢者医療のニーズへ対応す



る必要があるだろう。

図11 土浦市の高齢化率の推移

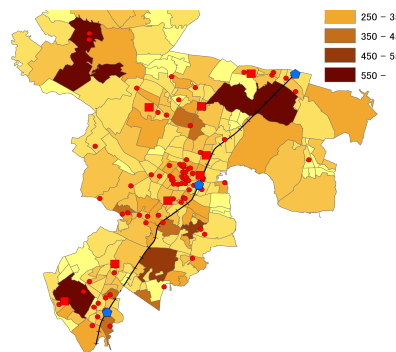
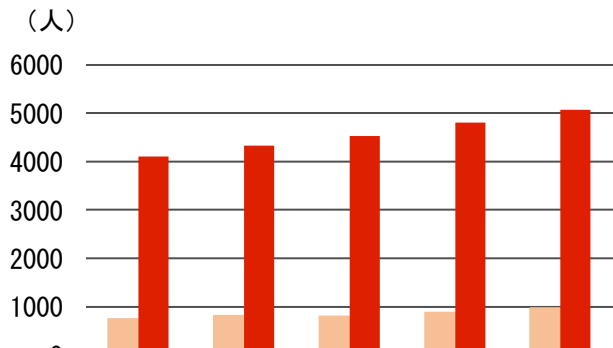


図13 高齢者人口と医療施設の分布

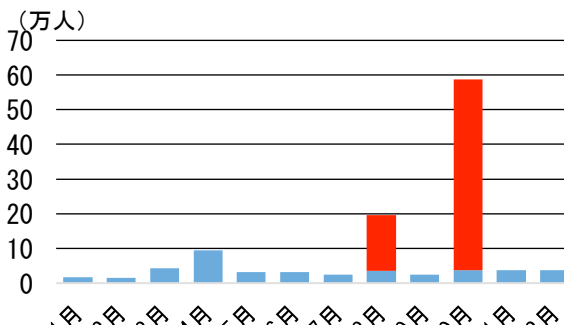
⑥ 交通

土浦市内の路線バス網に注目する。土浦市公共交通案内「つちナビ」において、市内のバス路線図が公開されている。中でも新治地区に注目すると、国道125号線を高岡や筑波山口（つくば市）、下妻駅（下妻市）に向かう路線バスのみが走っているものの、地区の大部分においては路線バスが走っていない。

新治地区では2011年からコミュニティバス「新治バス」が運行されていた。しかし、利用者の低迷や利用者にとって不便なルートが設定されていたことなどの理由から、2014年3月に廃止となっており、現在新治地区は交通空白地帯となっている。

⑦ 観光

土浦市を訪れる観光客数は、平成26年の茨城県観光客動態調査によると139万5,000人である。イベントのある月に注目すると、4月（桜まつり）は35,100人、8月（キララまつり）は20万3,000人、10月（土浦全国花火競技大会）は73万6000人である。8月と10月におけるイベント来場者との比率を、茨城県の平成25年度の観光客動態調査をもとに比較した。8月のイベント観光客比率は約81.7%（全体観光客：19万5,800人、キララ祭り来場者：16万人）、10月は約93.8%（全体観光客58万6,500人、土浦全国花火競技大会来場者：55万人）である。したがって、土浦市の観光客はイベント開催の時期に限り、来場者の占める割合が多いことがわかる。



か見られた。犯罪件数を見ると土浦市は犯罪率であり、特に荒川沖駅周辺は市内で総数が多い地域であったため、治安が良い交通危険箇所に関しては、神立駅西口ロー車の動線が交わる箇所、同駅西側の道路が車が接触しそうな箇所が危険であると言え



図15 荒川沖駅前さんぽる跡の無断自転車

(2) 分野別の現状・課題発見のまとめ

人 口	人口減少・少子高齢化 進行
農 業	衰退傾向・農業形態の変化
工 業	おおつの地区の将来像検討の必要
商 業	中心市街地の衰退
医療・福祉	医療施設の空白地帯の存在
交 通	交通空白地帯の存在
観 光	観光資源の活用不足
安 全	治安悪化誘因・交通動線の危険

2. 理想の都市像

以上の現状把握・課題発見ののち、私た市像を「新しい」を受け入れ、「新しい」をと定めた。都市が縮小する時代において繁り成長を見込んだりするのではなく、社会「新しいまちのあり方」を追求する。その市の成長よりも幸せを」という考え方があげ大きなまちをつくるのではなく、小さなせ（住みやすさ・働きやすさ・訪れやすさ）ここで、「新しいを受け入れる」というのイフスタイルやストックの利用法転換な応し他者を受け入れること、「新しいを生うのは住民が土浦市のストックや可能性